

## テキスト解釈編——ボードレールの『アベルとカイン』

### 1 アベルとカイン全詩

#### 韻律解析

I

音節数と分節：(4+4)=A, (5+3)=B, (3+5)=B'

1. Race d'Abel, dors, bois et mange;  
[ ra sə-da-bɛl dɔʁ bwa (z)e-mɑ̃ʒ ]

(A) アベルの末裔よ、寝て、飲み、食べよ、  
\* (5) はアクセント? (6-7) Hiatus.

2. Dieu te sourit complaisamment.  
[ djøtə-su-ri kɔ̃-plɛ-za-mɑ̃ ]

(A) 神は汝に優しく微笑んでいる。  
\* 半句が一語だと第2音節に強さアクセント? (杉山 122 頁)

3. Race de Caïn, dans la fange  
[ ra sə-də-ka-ɛ̃ dɑ̃-la-fɑ̃ʒ ]

(B) カインの末裔よ、泥の中で  
\* 5/3 に切り替わる。

4. Rampe et meurs misérablement.  
[ rɑ̃ pe-mœʁ mi-ze-ra-blə-mɑ̃ ]

(B') 這いつくばって無様に死ね。  
\* アクセントは2.の時と同様。ただ ra に来た方が自然。

5. Race d'Abel, ton sacrifice  
[ ra sə-da-bɛl tɔ̃-sa-kʁi-fis ]

(A) アベルの末裔よ、汝の供犠は

6. Flatte le nez du Séraphin!  
[ fla tɛ-lə-ne dy-se-ra-fɛ̃ ]

(A) 熾天使セラフィムの鼻を悦ばす!  
\* fla-tte は切らない?

7. Race de Caïn, ton supplice  
[ ra sə-də-ka-ɛ̃ tɔ̃-sy-plis ]

(B) カインの末裔よ、汝の責め具に

8. Aura-t-il jamais une fin?  
[ œʁ-a-til-ʒa-mɛ zy-nə-fɛ̃ ]

(B) 終わりなどあるのだろうか?  
\* 5/3 の図式に従い、une を分割。

9. Race d'Abel, vois tes semailles  
[ ra sə-da-bɛl vwa te-sə-mɑ̃ʒ ]

(A) アベルの末裔よ、汝の穀物の種と家畜の  
\* voir venir qc は「事の成り行きを見守る」の意で解釈。

1 2 3 4 5 6 7 8  
 ∪ ∪ ∪ — ∪ — ∪ —  
 10. Et ton bétail venir à bien ;  
 [ e-tō-be-taj və-nir a-bjẽ ]

(A) 成長をしかと見つめよ。  
 \* ve-ni-rà か ve-nir-à、どっちが自然？

1 2 3 4 5 6 7 8  
 — ∪ ∪ ∪ — ∪ ∪ —  
 11. Race de Caïn, tes entrailles  
 [ ra sə-də-ka-ẽ te-(z)ã-traj ]

(B) カインの末裔よ、汝の腹は

1 2 3 4 5 6 7 8  
 — ∪ ∪ — ∪ ∪ — ∪ —  
 12. Hurlent la faim comme un vieux chien.  
 [ yrlə-la-fẽ kə-mẽ-vjø-sjẽ ]

(A) 老いた犬のように飢えに叫ぶ  
 \* vieux にアクセント？, 4/4 になっている。

1 2 3 4 5 6 7 8  
 — ∪ ∪ — — ∪ ∪ —  
 13. Race d'Abel, chauffe ton ventre  
 [ ra sə-da-bəl fo fə-tō-vãtr ]

(A) アベルの末裔よ、汝の腹を  
 \* chau-ffe で切るべき？

1 2 3 4 5 6 7 8  
 ∪ ∪ ∪ — ∪ ∪ ∪ —  
 14. A ton foyer patriarcal ;  
 [ a-tō-fwa-je pa-tri-jar-kal ]

(A) 族長の暖炉で暖めよ

1 2 3 4 5 6 7 8  
 — ∪ ∪ ∪ — ∪ ∪ —  
 15. Race de Caïn, dans ton antre  
 [ ra sə-də-ka-ẽ dã-tō-nãtr ]

(B) カインの末裔よ、ほら穴の中で

1 2 3 4 5 6 7 8  
 — ∪ ∪ — — ∪ ∪ —  
 16. Tremble de froid, pauvre chacal !  
 [ trã blə-də-frwa po vr-ʃa-kal ]

(A) 寒さに震えよ、憐れなジャッカル！  
 \* 4/4 になっている。

1 2 3 4 5 6 7 8  
 — ∪ ∪ ∪ — ∪ ∪ —  
 17. Race d'Abel, aime et pullule !  
 [ ra sə-da-bəl ɛ me-py-lyl ]

(A) アベルの末裔よ、愛し、子を増やせ！

1 2 3 4 5 6 7 8  
 ∪ ∪ — ∪ ∪ ∪ ∪ —  
 18. Ton or fait aussi des petits.  
 [ tō-(n)ɔR-fɛ o-si-dɛ-pə-ti ]

(B') 汝の富もまた、増える  
 \* 4+4 になっていない？

1 2 3 4 5 6 7 8  
 — ∪ ∪ ∪ — — ∪ ∪ —  
 19. Race de Caïn, cœur qui brûle,  
 [ ra sə-də-ka-ẽ kœR ki-bryl ]

(B) カインの末裔よ、燃える心よ、  
 \* このあたりから形勢逆転？

1 2 3 4 5 6 7 8  
 ∪ — ∪ ∪ — ∪ — ∪ ∪ —  
 20. Prends garde à ces grands appétits.  
 [ prã-garda-se-grã (z)a-pe-ti ]

(B) この大なる渴きに用心せよ。  
 \* Prends にもアクセント？

1 2 3 4 5 6 7 8  
 — ∪ ∪ ∪ — ∪ — ∪ —  
 21. Race d'Abel, tu crois et broutes  
 [ ra sə-da-bəl ty-krwa (z)e-brut ]

(A) アベルの末裔よ、汝は育ち、草を喰む

1 2 3 4 5 6 7 8  
 ∪ ∪ ∪ ∪ — ∪ ∪ —  
 22. Comme les punaise des bois !

(B) その姿はカメムシのよう

[ kə-mə-le-py-nɛ zə-de-bwa ]

\* カインの 5/3 に侵食されている。

1 2 3 4 5 6 7 8  
- ∪ ∪ ∪ - ∪ ∪ -  
23. Race de Caïn, sur les routes  
[ ra sə-də-ka-ẽ ]

(B) カインの末裔よ、汝の家族を

1 2 3 4 5 6 7 8  
- ∪ ∪ ∪ - ∪ ∪ -  
24. Traîne ta famille aux abois.  
[ trɛ-nə-ta-fa-mi jo-(z)a-bwa ]

(B) 道の上へと追い詰めよ

\* aux abois は副詞句?

## II

1 2 3 4 5 6 7 8  
- ∪ ∪ ∪ - ∪ ∪ -  
25. Ah! Race d'Abel, ta charogne  
[ a ra sə-da-bɛl ta-ʃa-rɔŋ ]

(B) ああ! アベルの末裔よ、汝の亡骸は

\* Ah!は統語アクセントとして数えるべきか?

1 2 3 4 5 6 7 8  
∪ ∪ ∪ - ∪ - ∪ -  
26. Engraissera le sol fumant!  
[ ã-grɛ-sə-ra lə-sɔl fymã ]

(B) 湯気立つ土壌を肥やすだろう

\* -grai-は二次アクセント?

1 2 3 4 5 6 7 8  
- ∪ ∪ ∪ - ∪ ∪ -  
27. Race de Caïn, ta besogne  
[ ra sə-də-ka-ẽ ta-bə-zɔŋ ]

(B) カインの末裔よ、汝の使命は

1 2 3 4 5 6 7 8  
∪ ∪ ∪ - ∪ ∪ ∪ -  
28. N'est pas faite suffisamment;  
[ nɛ-pa-fɛ tə-sy-fi-za-mã ]

(B') いまだ果たされてはいない。

1 2 3 4 5 6 7 8  
- ∪ ∪ ∪ - ∪ ∪ ∪ -  
29. Race d'Abel, voici ta honte:  
[ ra sə-da-bɛl vwa-si-ta-õt ]

(A) アベルの末裔よ、これぞ汝の恥である

\* (7-8) Hiatus.

1 2 3 4 5 6 7 8  
∪ - ∪ ∪ ∪ - ∪ ∪ ∪ -  
30. Le fer est vaincu par l'épieu!  
[ lə-fɛr ɛ-vɛ-ky par-e-pijø ]

(B) 鏝が矛に破られたのだ!

\* 5/3

1 2 3 4 5 6 7 8  
- ∪ ∪ ∪ ∪ - ∪ ∪ -  
31. Race de Caïn, au ciel monte,  
[ ra sə-də-ka-ẽ o-sjɛl mõt ]

(B) カインの末裔よ、天まで昇れ

1 2 3 4 5 6 7 8  
∪ ∪ ∪ - ∪ ∪ ∪ -  
32. Et sur la terre jette Dieu!  
[ e-syr-la-tɛ rə-ʒɛ-tə-djø ]

(A) そこで神を地上に投げ捨てよ!

\* 4/4 になる。

## 2 事前準備

### 2.1 ボードレールの歴史的状況および文学的地位

### 2.2 『悪の華』（1861年版）の版との相違

この詩は、*Les Fleurs du Mal* の « Révolte » の章に収められた、119 番目の詩篇である。1957 年版では 91 番目、1968 年版では 154 番目にあたる。

### 2.3 アベルとカインの物語について

### 2.4 同主題を扱った詩作品

#### 2.4.1 ユゴー「意識」（『世紀の伝説』）

#### 2.4.2 ネルヴァル「アンテロス」（『幻想詩集』）

#### 2.4.3 ルコント・ド・リール『カイン』

## 3 象徴的リズム

### 3.1 韻律アクセントと統語アクセント

この詩は、8 音節綴で句切れのない単純韻律<sup>\*1</sup>で、最後まで一貫している。しかし、以下のように統語論的リズム (rythme syntaxique) に着目すると、そこに変化を見ることができる。

1. Race d'Abel, (4) | dors, bois et mange (4)
2. Dieu te sourit (4) | complaisamment (4)
3. Race de Caïn, (5) | dans la fange (3)
4. Rampe et meurs (3) | misérablement. (5)

この詩が 8 つの 4 行詩 (quatrain) として見たとき、それぞれの v.1 (「カインの末裔よ...」) は « Ah! » が入る v. 25 を除き、全て 4+4 となっている。一方、それぞれの v.3 (「アベルの末裔よ...」) は、例外なく全て 5+3 となっている。ここから、それぞれの分節 (mesure) がアベルとカインという二種類の「末裔 (Races)」に特有の標識となっていることがわかる。

### 3.2 分節がもたらす効果 (1) — 緊張の効果

この詩を 16 ある 2 行詩 (distique) として見たとき、ほとんどの詩節が、先に引用した 4 行詩のモデル (AABB) に基づきながら、各詩句に 2 つ以上の句切れをもって展開していることがわかる。

脚韻が詩句の分節と一致していない点にも注意しておきたい (v.1 : v.3, v.2 : v.4)。v.1 と v.3 の脚韻は -ange で一致していながらも、分節は « Race d'Abel » と « Race de Caïn » であっても

---

\*1. 4-8 音節までが単純韻律、9-12 が複合韻律

音節数は 4 :5 となっており、不規則である。同様に v.2 と v.4 の脚韻は -ment で一致していながら、分節は « complaisamment » と « misérablement » で 4 :5 となっており、不規則である。これらは、たとえ連辞的に同一であったとしても、音節数が異なってしまう。

このような 4+4 (v.1) と 5+3 (v.3) という分節の図式は、v.2 と v.4 の場合には適用されない。それはこの分節が韻律的ではなく、ディスクールの統語論的組織に関係していることを示している。

4+4+4+4 (v.1-2) と 5+3+3+5 あるいは 5+3+5+3 (v.3-4) で構成される 4 行詩は第 1 部においては、ほとんど規則的に機能している。例外は、各詩節の v.4 にあたる v.12 と v.16 であり、本来 5+3 か 3+5 になるはずが、どちらも 4+4 となっている。しかし、1857 年版をみると、この箇所はどちらも 3+5 に変更されている。

v.12 : Crient la faim (3) | comme un pauvre chien (5)

v.16 : Grelette (3) | comme un vieux chacal (5)

こうした 5+3 の異文は、1861 年の版には維持されることはなかった\*2。

### 3.3 分節がもたらす効果 (2) — 5+3 の 4+4 殺しの寓話

第 2 部に目を向けると、最初の v.1 に間投詞 « Ah! » が入り、「アベルの末裔よ…」で期待されていた 4 音節が、5 音節に変化している。この間投詞は意味論的な転回の主体的な標識である。

また、第 2 部はカインの分節である 5+3 の比率が高く、アベルの分節である 4+4 は全体の 4 分の 1 しかない。そもそもこの 4+4 の 8 音節詩句は『カルメン』の「怒りの日」にも見られる、古来からある図式である。ボードレールの時代になると、こうした対称的な図式から非対称的な図式を用いるようになる。ここで古い図式をアベルに見立て、新しい図式をカインに見立てることで、ボードレールは弟殺しの寓話を現代的図式の台頭と結びつけることに成功した。こうして、ボードレールは聖書の寓話をリズム論的な読み物にした。さらに、文の区切り (phrase) \*3 レトリックの面で彼は、象徴を介したひとつのリズム論を導入したのである \*4。

こうしたシニフィアンのリズミカルな緊張が生み出すのは、アクセント配置の研究を含めて今後分析されていくある特定の分節法 (phrasé) である。

---

\*2. この理解は正しいのだろうか？ v.18 も本来 4+4 が来るところに 3+5 が来ているが、これは例外ではないのか？ 1857 年版ではこの箇所は « L'argent fait aussi ses petits » となっているが、3+5 であることに変わりはない。また、1861 年版では、v.9-12 と v.13-16 が AABA の型で同一となっているが、この点についてデソンは語っていない。この図式に基づけば、第 1 部が AABB (v.1-8) → AABA (v.9-16) *rightarrow* ABBB (v.17-24) のブロックに分けられるのではないだろうか。統語論的ディスクールの組織が初版に見られたと主張するならまだわかるが、ここでは改訂後のことについては何も語っていない。

\*3. phraser, phrasé といった表現が出てくるため、文章というよりも、文の区切りのことを指していると思われる。

\*4. しかし一方でこれは「父親殺し」の主題でもある。古いものから新しいものへの変化は、必ずしも「『弟』殺し」の寓話に合致するものではないように思われる。

## 4 詩特有の文体

### 4.1 反-分節と頓呼法

こうした象徴を介したレトリックは、『アベルとカイン』のリズムを構成する要素の1つである。このレトリック、そして詩内部の〈ボードレールの声〉の発話と書き込みを研究する分野こそが詩の一般リズム論 (la rythmique générale du poème) である。

二重に象徴的な文の区切りのリズム (アベルの4音節とカインの5音節) の創作は、リズムという概念の変化を示している。たとえそれが実際には聖書の寓話特有の二項対立的なリズム表象に過ぎなかったとしても、リズムは、表現性の道具から、意味するものの要素へと変化していく。

文の区切りのリズムは、頓呼法 (apostrophe) のレトリックによって暗示されているのだが、最終的には8音節詩句の認識を弱める反-分節 (contre-mesure) を導入することとなった。これでもって、4+4 や 5+3 の連続を感じ取ることができるようになったが、時にそれは2音節詩句の内部でも急激な変化をもたらすことさえある。

v.29 : Race d'Abel, (4) voici ta honte : (4)

v.30 : Le fer est vaincu (5) par l'épieu! (3)

この反-分節こそが、8音節詩句の韻律ベースの区分を無効にし、非対称的な図式を形作る。この点において反-分節は話し言葉とも深い関わりをもっている。頓呼法は、単なる表現技法ではもはやなく、分節法やリズムの<sup>フィギュール</sup>形象としての発話行為のレトリックである。こうした形象は、祈願のディスクールに固有のものだが、ここではそれが<sup>エネルゲイア</sup>現実態のパロールにあたる。

この詩の超=アクセント配置 (suraccentuation) は、詩句に<sup>オラリテ</sup>口頭性の分節法を導入する。それはすなわち、リズム論と発話行為の密接な連携である (「私」の言語学的出現とも言えよう)。アクセントをマーキングする際、頓呼法や命令法、感嘆表現を基礎とする祈願や呪詛のレトリックを切り離すことはできない。

### 4.2 単音節のリズム

v.8 を除き、全ての詩句が、詩句の冒頭に声立てのアクセントが置かれている。その中でも20の詩句が、単音節によるアクセントである (感嘆符1 « Ah! », 命令法4 « Rampe, Tremble, Prends, Traîne », 頓呼法15 « Race ... »)。詩句内部に目を向けると、10の単音節の単語がある (頓呼法1 « Cœur », 命令法9 « dors, bois, mange, rampe, meurs, bois, chauffe, aime, monte »)。さらに13の単音節が、<sup>コントル・アクサン</sup>隣接強勢を生じさせており、一般的なアクセント配置を補強している。

凡例

—	韻律アクセント
∪ ∩	プロゾディー・アクセント
1. 2. 3 ...	<small>コントロール・アクセント</small> 隣接強勢
0.	隣接強勢の前後にあるプロゾディーを形成する音素
mtr.	韻律アクセント
sytx.	統辞アクセント

$\frac{1}{\cup}$   $\frac{2}{\cap}$  ∪ ∩ —  
Ah! Race d'Abel

1. [a]/sytx. → 2. [a]/sytx.

— ∪  $\frac{1}{\cup}$   $\frac{2}{\cap}$   $\frac{3}{\cap}$   $\frac{4}{\cup}$   
Race d'Abel, dors, bois

1. [d] → 2. [b]/sytx. → 3. [d]/sytx. → 4. [b]/mtr.

— ∪ ∪  $\frac{1}{\cup}$   $\frac{2}{\cap}$   $\frac{3}{\cap}$   $\frac{4}{\cup}$   $\frac{5}{\cup}$   
Race de Caïn, cœur qui brûle

1. [k] → 2. sytx. → 3. [k]/[R]/sytx. → 4. [k] → 5. [R]/mtr.

$\frac{1}{\cup}$   $\frac{2}{\cup}$   $\frac{3}{\cup}$   $\frac{4}{\cup}$   $\frac{5}{\cup}$   $\frac{6}{\cup}$   $\frac{7}{\cup}$   $\frac{8}{\cup}$   
Race d'Abel, voici ta honte :

1. [a]/sytx. → 2. [s] → 3. [a] → 4. sytx. → 5. [a] → 6. [s] → 7. [t]/[a] → 8. [t]/mtr.

祈願のレトリックは統語論であると同時にリズムでもある。自立した名詞グループから成る頓呼表現は、そのグループを含むディスクールからは切り離されているため、必然的に隣接強勢を生み出すことになる（上記参照）。

詩作品が詩句の内部で発するこうしたリズムは、聖書をはじめとする、口頭性のテキストの韻律測定されていない分節法を見出す。ボードレールのエクリチュールはアクセント配置が、リズム・統語論・ディスクールの意味作用を同時に兼ね備えた真の句読法となったテキストに接近しようとしたのである。

以上のことから、1861年版のボードレールが7つの句点を、1つのコロンと2つの感嘆符と4つのカンマに置き換えることで、休符記号を控えたことが説明できるだろう。論理的な句読法の減退は、必然的にリズムの句読法の強化となる。

## 5 結論

以上の検討から、この詩篇では、詩がもつ寓意的合目的性によって主題とリズムの扱いが結びついていることを考慮に入れておこう。詩の面で寓意が表すもの、それは本質的にボードレールの詩的な立場であると同時に政治的な立場である。それは、この詩人を主体でありかつ詩人として規定する社会との関係から言えることである。

この詩人と主体という二重の価値から同時に感じ取れることは、闘争の未解決な状態としての総体を「支配させる (fait tenir)」詩の全面化した緊張である。

最後に、ボードレーが「カインの反逆」という時代物の文学的な主題をひとつの「声」にすることができたことを指摘しておきたい。それは冗長なお喋り (litanie) のレトリックから、詩の散文の働きを見出すための手続きを取り入れることで可能となる。こうした音節詩句における韻律制約を含むリズムの分節法の探求は、『悪の華』と『小散文詩集』の作品の間の連続性を確固たるものとする。